

## 冬季合宿採卵会のお知らせ

今年の合宿採集会は、春の山菜ギフの後、数年続いた夏をパスしましたが、初冬のゼフ卵採集会を開催致します。初めての企画ですが、日頃例会に出席できない方々を含め、夜は温泉とお酒を楽しみながら、ゆっくりと虫談を交わし、忘年会を兼ねた親睦を深めたいと思います。

ゼフ卵採集未経験の方も、是非この際参加して、初冬の澄んだ空気の中、成虫採集とは違った楽しさを体験してみてください。

## 記

開催月日 11月19日(土)～20日(日)

宿泊場所 長野県下諏訪温泉 諏訪大社 ホテル山王閣(予定)

参加会費 一般；8000円、学生、女性；7000円。

但し、呑み助には追加徴収有り。又、交通費は各車ごとに清算。

## 概要

19日；予め決めた配車ごとに集合し、数グループに分かれ、終日採集。雨天決行。午後4時半までに、ホテル集合。忘年会を兼ねた夕食後、別途イベントを予定。

20日；朝食後、下諏訪町、大和(おおわ)地区裏山のカシワ林にて、ハヤシミドリ、ダイセンシジミ、ジョウザンミドリ、ミズイロオナガシジミ等の卵、オオムラサキの幼虫等を採集(およそ昼まで)。但し別行動も可。

参加申し込み 第一次受付10月10日まで。但し10月末日までは変更可。

企画幹事までメール、Telにて。

仲西；guizumo@jcom.home.ne.jp 03-3397-5412

早坂；kouji-h@c3-net.ne.jp 045-823-4430

小柴；koshibakiyoyuki@yahoo.co.jp 042-327-4321

尚、採集場所、採集卵種、希望同行(乗)者等のご希望があれば、配車計画の中で調整致します。又、参加者には11月初旬に配車計画、参加者名簿、宿舎の詳細(含む地図)等を連絡致します。多数のご参加をお待ちしております。

\* フィリッピン、ベトナムの13日の旅より戻ってきました。詳しい話は別の機会として、近年の異常気象…と日本他でも取りざたされているように、東南アジアでも例外ではありませんでした。雨季で雨が多いのは承知しておりましたが、雨台風が2度来て毎日雨で13日のうちお日様をみたのは3日だけでした。ベトナム各地で洪水があり地元の人もこんな年は初めてと言っておりました。それでも雨止みの間隙をぬって時間こそ少ないがしぶとく毎日採集してきました。フィリッピンではブルーに光るピツカリジャ

ノメに驚かされ、コウトウキシタアゲハの優雅に舞う姿や、どでかい終令幼虫にあって楽しんできました。彼らがマニラから 1 時間の観光地、タガイタイで見られるポイントが発見されていたのは 10 数年ぶりのフィリピンの驚きでした。

ベトナムでは雨でネットが濡れ、せつかくネットしても尾状突起や触覚がとれ、翅がこすれてしまうのに悩まされながらも、ゼフ同様金緑に光る Arphopalpa (ムラサキツバメの仲間) やコケムシイナズマ♀ (珍品だとか) 沢山いる大きい黒くてかっこいいイナズマ (albopunctata) キララシジミ他かなり珍しいものも含めて書類ケース一杯分を採ってきました。

シロチョウとアゲハ類が少ないのにまいました、キシタアゲハなど 2 種いると言うのに目撃さえできませんでした。

やはり東南アジアは慣れ親しんだ蝶が多く気楽で楽しい旅でした。元気なうちに又是非行きたいものだと痛感しております。

\* メルアド変更

保坂 満 falter.hosaka@nifty.com

\* 新刊

ランカウイの蝶	加藤勝利	自刊	¥15000	509-6125	瑞浪市上野町 3-31-1
チョウの生物学	本田計一他	東大出版会	¥9975	03-3811-8814	
日本の迷蝶 II	白水隆	蝶研出版	¥15000	072-627-9828	
大阪府の蝶	著者多数	大阪昆虫同好会	¥3000	651-1233	神戸市北区日の峰 1-12-12 杠隆史方

\* 新聞紙上より

05.8.26 吉村仁著  
**素数ゼミの謎**  
アメリカに、一定の年ごとに大量発生するゼミがいるというニュースを耳にしたことがあるかもしれない。  
これらのゼミは、13年や17年といった「素数」(1と自分自身でしか割り切れない数)の年ごとに発生するので、「素数ゼミ」と呼ばれる。  
素数ゼミは、アメリカの大部分が氷に覆われていた氷河期に進化したという。なぜ氷河期が素数ゼミを作るのか? 素数どうしの共通の倍数は大きくなるので、異種間で発生が重なることが少ない。そこまでは、素人でも想像がつく。ところが、その先の細部に驚きが隠されているのである。目からウロコの解答については、本書を読んでいただくしかない。  
これほど美しく楽しい本は久しぶりだ。著者の白衣姿の写真といい、センスの良いイラストといい、至るところに自然への、そして本というメディアへの愛情があふれている。(文芸春秋、1429円)  
評者・茂木健一郎(脳科学者)

## 技巧尽くした「机上の自然」

昆虫採集をこよなく愛する人という人は多い。その魅力を想像するに、野山で捕まえた後、集めた標本を机上で眺めているのも至福の時間なのではあるまいか。その趣味の方は、おそらく強く興味をそそられるはず。

文化庁が近年購入した文化財を紹介する「新たな国民のたから」展に出品されている「蝶蜻蛉蒔絵螺鈿料紙硯箱」。桜の樹皮を張った料紙箱と硯箱に色とりどりの虫たちが舞う。細かな蜻蛉の翅脈をはじめ、標本さながらの精巧さに息をのむ。ところどころに仕込まれた螺鈿も美しく、蝶の羽にあたる部分では鱗粉の輝きを思わせる。

円山応挙が下絵を描き、長野横笛が蒔絵を施した——という箱書きがあるという。応挙は写

## 日本のカタチ

ちろうとんほまきえらでんりょうしすりまこ  
蝶蜻蛉蒔絵螺鈿料紙硯箱



江戸時代 写真は料紙箱—高さ12.7寸 文化庁保管

05.8.27  
流石(19)

実的な画風で18世紀の京都画壇を席巻した絵師。リアルな「百蝶図」なども残している人だから、あり得ないことではないけれど、ともあれ博物学的な関心が高まった時期にあたる。制作を依頼したのは、その方面に深入りしていた人に違いない。

真に迫る表現の背景には、都市化が進む中で自然志向も存在していたのかもしれない。最近出た『講座 日本美術史2』（東京大学出版会）に収録される佐藤康宏氏の論考は、同じく18世紀人である伊藤若冲の絵

について、「都会で失われていく自然を実際以上に過剰な姿で回復する」性格を持っていたのではないかと指摘している。料紙箱、硯箱はもとより室内で使うものだし、人工的な技巧を尽くした造形だが、虫たちとその背景をなす桜の樹皮は確かに自然の息吹を伝える。精緻極まる「机上の自然」を、持ち主は飽かず眺めたことだろう。

（前田恭二）



おしほ  
船橋市の行田公園で21日、夏休みを利用したセミのぬげがら調査が行われた。写真。セミの鳴き声が響く中、小学生とその親ら52人が参加、ぬげがらを収集した。

◆…一般的にセミの種類が多いほど自然度が高いと言われており、行田公園では、数年前に関東方面であまり見ることがないクマセミのからも見つかっている。

◆…この日は6000個以上も見つかり、父親と参加した長井夏海ちゃん(9)は「数え切れないほどのぬげがらを見つけてられて楽しかった」と一生懸命虫がねをのぞき込んでいた。

# 台風トンボと紅の秋

台風11号の去った翌日の先月26日、近所の草原で、思いがけない出会いをした。相手は小さなトンボ、アカトンボの半分ほどの大きさしかなかった。羽の差し渡し約3・5センチ。羽も体も褐色だが、羽の先端は無色透明で、その透明部分が、羽の後縁を細く縁取っていた。

写真に写っていたその縁取りが決め手になって、トンボに詳しい人が、フチドリベッコウトンボと判定してくれた。東南アジア熱帯域に分布し、日本では西表島で見られたことがあるだけという珍種だという。台風には飛ばされて来たらしい。風に傷んだ様子はなく元気な雄で、私が1センチほどの距離に近づくと、その度に、ちよいと飛んで逃げる。そうやって10分間ほど私と遊んでくれてから、深い藪に去った。

この日は、半袖、半ズボン姿、撮影に手がふさがるので、腕とすねに、ゴマを振ったようにたかる黒い藪蚊・ヒトスジシマカを、払うこともままならず、流れる汗をぬぐいもならず、流汗淋漓という熟語が何度も頭に浮かんだ。藪漕ぎに備え、長袖、長ズボン、ゴム長で臨んだ次の日にはもういなくなった。南へ帰ろうとしたか。

台風11号は、この愛らしい風来坊と一緒に猛暑をも連れてきたが、さすがに季節は移ろいつつある。ここ横浜では、コオロギたちが鳴き始め、ハナミズキの葉は、縁の色を失いつつ紅葉の準備に入っている。

去り行く夏の太陽をとどめるかのような観葉植物をお目にかげよう。インド原産、ハゲイトウ、漢字で葉鶏頭。一名、ガンライコウ、雁が渡ってくるころ赤くなるという中国名・雁来紅をそのまま借用している。学名をアマランサス・トリコロル。近年、あまり見かけないが、1センチになる一年草で、秋が深まるにつれ、葉の色が鮮やかになる。

葉が黄色のものを雁来黄という。花は葉陰にあって目立たない。紅と黄は、中国語ではもとより、日本でも少なくとも戦前までは、発音が異なっていたので、聞くだけで区別がついた。紅海はこうかい、黄海はくわうかい、で、振り仮名もそうなっていた。昭和天皇や、年長の九州の人は、戦後もその発音を守っていた。

本種を含めアマランサス類は、熱帯地域で、葉を野菜、種子を穀物として重用され、日本でも、ケシ粒ほどの褐色の種子が、新顔の雑穀・アマランサスとして売られている。



① フチドリベッコウトンボ。  
本土で確認されるのは極めてまれ  
② 太陽の色を映すような雁来紅  
③ 上の葉が黄色い雁来黄  
(①は先月26日、②③は30日撮影、いずれも横浜で)

25.9.6 読売